



坂井美穂
(公明党)



印刷物のアクセシビリティの向上

問 そのままの状態では印刷物の情報を受け取ることができないといった市民からの申し出はありますか。ある場合、内容と対策はどのようなですか。

問 視覚障がいのある方から「自宅に届いた郵便物の種類がわからない」との申し出があり、申請手続きにより、封筒に点字シールを付けるようにしました。

答 ごみの出し方、水災害ハザードマップ、納税通知書、はんだ市報について、視覚障がい者に限らず、識字障がい者や高齢者、日本語を理解できない外国人等への「配慮」の現状はどのような状況ですか。

多言語版の「ごみの出し方冊子」と「水災害ハザードマップ」の作成、納税通知書はユニバーサルフォントの採用、音声による声のはんだ市報を作成しています。

問 令和6年4月から、民間事業者においても「合理的配慮」が義務化になるにあたり、半田市での音声コードの導入検討を開始すべきと考えますが、見解を伺います。

まずは事例収集、課題抽出、施策の有効性など、音声コードの導入について調査研究を進めていきます。



竹内功治
(創造みらい半田)



ICTを活用した教育環境ならびに教育の充実

問 ICTの活用による心や諸問題への早期アプローチの取組みを伺います。

モデル事業として、課題を抱える児童生徒を多角的に評価し、支援・指導プログラムを自動生成するシステムを活用と検証を行っています。

問 タブレットへの書き込みや授業の振り返りのコメント等から、AIで心の問題を分析する取組みを行ってはどうですか。

先端技術の活用は重要ですが、まずモデル事業で進めていることから取組みます。

問 いじめの現状把握のため月二回ほど紙でアンケートを行っていますが、タブレットを活用

問 用してアンケートや児童生徒から相談が出来るようにしてはどうですか。

今後、取組みを検討します。

問 不登校や病気療養等で学校に通えない児童生徒のオンラインの活用を伺います。

一部の学校では不登校の児童生徒に対しオンラインでの授業参加を行っています。今後、更にICTの活用を積極的に進めていきます。

問 国はタブレットを活用した個別学習の推進を求めています。今後、学習・教材アプリの活用の充実をどう考えていますか。

児童生徒の習熟度に応じて問題を自動構成するAIの検証など、より効果的なアプリの調査研究を進めます。



鈴木幸彦
(創造みらい半田)



市職員は市政運営のための大きな原動力

問 市役所での働き方改革はどのようなことを行っていますか。

時差出勤・在宅勤務を導入し、定着したので今後も継続します。また男性職員の育児休業取得率も43.2%と確実に進んでいます。働きやすい職場環境を整えつつ、最大限の能力を発揮できるよう努めています。

問 夏場冬場の庁舎室温管理は、働く職員にとって適正ですか。

夏は28度、冬は19度を保ち、開庁から閉庁まで稼働させています。

問 現実の違いが、市民、残業の職員が不快を感じる環境を確認し

問 ています。姫路市では、夏場の室温を25度に設定した結果、仕事効率が上がりましたが、電業が大幅に減少、電気代との差し引きで数千円支出が抑えられました。半田市も挑戦してみませんか。

まずは開庁時間内は確実に空調を稼働させ、職員が心地よく仕事ができるよう、改善していきます。

問 中途離職や心の疾患で休職中の職員が目立ちます。事業は、職員の頑張りあって成り立つもの。職場環境の改善と良好な人間関係を創ることも市の責任と感ずますが、見解を伺います。

時間に余裕を持つこと、職員間の風通しを良くすることで不満を減らし、良好な職場環境を整えていきます。

